

信仰によって生きるために

主任司祭 吉池 好高

ことばあそびのように思えるかもしれませんが、今月の巻頭言では、「信仰を生きる」ということと、「信仰によって生きる」ということについて考えてみたいと思います。

私たちが信仰に求めていることは、信仰によって、この世の困難な生を生き抜く力を得ることではないかと思われます。自分に信仰があれば、どのような困難な状況の中にあっても、それを耐え抜くこと出来ると信じて、私たちは神の助けを求めて祈っています。そのようにして、私たちは信仰によって生きようと努めています。そのような私たちの祈りに、私たちが信じる神は応えてくださると、私たちはカトリック信者としての信仰によって祈っています。そのような私たちは、自分のカトリック信者としての信仰によって生きようとしているのです。

けれども、私たちが信じている神は、私たちの願いの祈りに応えてくださるという信仰を私たちはどこで見出したのでしょうか。それは、私たちがいつか、カトリック教会と出会って、カトリックの信仰を受け入れ、カトリック信者となることによって自分のものとした信仰です。

私たちはカトリック教会に伝えられてきたカトリックの「信仰を生きる」ことによって、神は私たちの祈りに応えてくださるという「信仰によって」生きようとしているのです。

私たちが自分の信仰によって生きることを真剣に願うのであれば、その都度、私たちは自分が祈っている神がどのようなお方であるかを再確認する必要があるように思えます。つまり自分のカトリック信者としての信仰の原点に立ち戻って、その自分の「信仰を生きる」ことが求められているように思えるのです。

今月は死者の月です。忘れてはならない、忘れることの出来ない死者たちのために祈ることは誰にとっても大切な人間としての務めです。そのような祈りをささげる私たちの心のうちに、カトリック信者としての私たちの信仰はどの程度生きているのでしょうか。その信仰が死者のために祈る私たちをどの程度力づけているのでしょうか。